

I E A 石油市場レポートの概要（2017年1月19日公表）  
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 2016年の世界の石油需要の見通しは、第4四半期の力強い数値の発表を受けて上昇した。 欧州北部の例年より寒い気候や産業に牽引されたアジアの成長がこの需要増の原動力となった。2016年の世界の石油需要の増加は150万バレル/日と予想され、2017年の増加は製品価格の上昇の可能性から130万バレル/日に鈍化すると予想されている。
2. 12月の世界の石油供給は、OPEC加盟国・非加盟国による供給減少により60万バレル/日減少し、9,760万バレル/日となった。 2016年の世界の供給量は、OPEC加盟国の記録的生産量がOPEC非加盟国の90万バレル/日の減少を打ち消したことによって、前年より30万バレル/日増加した。
3. OPEC加盟国の原油生産（現在インドネシアを除外）は、サウジアラビアの供給減少とナイジェリアでの供給停止により、記録的水準であった12月の3,309万バレル/日から32万バレル/日減少した。 サウジアラビアとその周辺国が供給削減を実施することにより、OPEC加盟国の更なる減産が1月中に進んでいる兆候がある。
4. 2017年のOPEC非加盟国からの供給は、協調減産への期待による原油価格の上昇が米国の石油開発投資を促進し、38.5万バレル/日増加すると予想される。 軽質タイトオイルの生産回復により、今年の米国の供給量が32万バレル/日増加することが見込まれる。
5. 11月のOECD加盟国の商業在庫は、原油や石油製品全般に渡って減少し、4ヶ月連続の減少となった。 12月の暫定値も考慮すると、在庫は6月の歴史的なピークからは8,200万バレルも少ない水準になっているが、それでも現在30億バレルという象徴的な水準を上回っている。
6. 12月初めに原油価格は上昇し、その後53-55ドル/バレルの範囲に留まっている。 ドバイ原油価格は、当初は弱含みだったものの、OPEC加盟国の供給量の見込みが低かったことにより、他の指標より上昇し、アジアにおけるブレントやWTIに連動した原油への裁定取引の拡大につながっている。燃料油は供給不足によって高値になっている。
7. 2016年第4四半期の世界的な石油精製量の見込みの上振れ（16万バレル/日）は、2017年第1四半期の26万バレル/日の下方改訂の部分的な原因になっている。 石油製品在庫の推移の分析では、2016年第4四半期にOECD加盟国では在庫増、OECD非加盟国では在庫過剰が持続することが見込まれる。